

2014年4月6日 主日礼拝説教（要約）

聖書 ルカによる福音書4章16～21節

説教 「主の恵みの年を告げる」 日本キリスト教会鶴見教会牧師 高松牧人

主イエスはガリラヤの諸会堂で宣教活動を始められました。その活動は聖霊の力に満ちていました。主イエスの宣教は故郷の町ナザレでも行われました。その具体的な様子がルカによる福音書4章16節以下に記されています。

「いつものとおり安息日に会堂に入り、聖書を朗読しようとしてお立ちになった。預言者イザヤの書が渡され、お開きになると、次のように書いてある箇所が目にとまった」とあります。当時、町々には会堂（シナゴグ）と呼ばれる建物があって、神の民の信仰生活、社会生活の拠点となっていました。会堂には会堂長がいて、そこには巻物状の聖書が置かれていました。日課に従い律法の書と預言者の書が朗読され、ヘブル語で記された御言葉はすでに庶民には難解であったため、その場で日常のアラム語に訳され、その御言葉の解き明かしがなされたようです。

「いつものとおり」と書かれています。主イエスの活動は聖霊の力に満ちて行われたのですが、それは決して突飛な行動を伴ったものではありませんでした。主イエスは、幼い日から慣れ親しんでおられた会堂の礼拝において活動を開始されました。新しい時代の救いのおとずれは日常生活から離れたところで起こったのではなく、いつものように会堂に集まり礼拝するところで語られ聴かれたのです。私たちも、聖書に聴き続け、祈り続ける礼拝の中で、神の力ある御言葉と御業にあずかることができるのです。

また、主イエス・キリストの福音は、愚かですみずきに満ちたものですから、人間の知恵や力によらず、聖霊の力に満たされなければ、正しく語られ聴かれないのです。耳に心地よく、この世ですぐに役立つような話ならば、何も聖霊の力に満ちる必要はないでしょう。けれども、人間の罪を指摘し、耳障りのよくない言葉をあえて語ることは、聖霊の力なくしてはできません。主イエス御自身も聖霊の力に満たされて御言葉を語られました。私たちも、聖霊の力に満たされて、主イエスを宣べ伝える務めを果たすことができるのです。

その日、ナザレの会堂で読まれた聖書の箇所はイザヤ書61章1節以下の預言の御言葉でした。

「主の霊がわたしの上におられる。

貧しい人に福音を告げ知らせるために、

主がわたしに油を注がれたからである。

主がわたしを遣わされたのは、

捕らわれている人に解放を

目の見えない人に視力の回復を告げ、

圧迫されている人を自由にし、

主の恵みの年を告げるためである。」(18～19 節)

捕囚の地から帰り、多くの困難の中で意気消沈している人々に向かって、神は聖霊の油が注がれるメシアを通して、救いの御業を実現してくださるであろうという約束です。それは昔イスラエルの律法の中に規定されていた 50 年毎の「ヨベルの年」、すなわち奴隷が解放され、さまざまな借金なども帳消しにされる「恵みの年」を思い起こさせるものだというのです。

このような預言の言葉を朗読された主イエスは、人々が注目する中、「この聖書の言葉は、今日、あなたがたが耳にしたとき、実現した」と話し始められました。これは単なる説明や解説ではありません。ご自分がメシアであるという宣言です。私がおこにきた今、「時は満ちた、神の国は近づいた」というのです。

「この聖書の言葉は、今日、実現した」と主イエスは言われました。実現したというのは、満たされたとか満たされているという言葉です。そして「今日」という言葉は、ルカによる福音書では重要な箇所に使われている言葉です。とくに神の救いの力が現れたときに使われている表現です。クリスマス物語で、天使が救い主誕生のことを野宿している羊飼いたちに知らせる場面で、「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。この方こそ主メシアである」(ルカ 2:11) という天からの声が記されています。エリコの町の徴税人の頭ザアカイに主イエスが出会ってくださり、ザアカイが自分の喜びと新しい生き方を言い表したとき、主イエスは、「今日、救いがこの家を訪れた」(ルカ 19:9) と言われました。さらに、主イエスが十字架にかけられたとき、傍らで十字架につけられていた犯罪人が「あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と願ったとき、主イエスは「あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」(ルカ 23:43) と言われたのでした。つまり、ただ単に今日とか明日とかいうのではなくて、まさに今ここで神の救いの力が現れ出た、神の力が満ち満ちている、約束がついに実現しているというのです。

さらに、「あなたがたが耳にしたとき」とありますが、原文では「あなたがたの耳の中で」と書いてあります。ですから、時ではなく場所を表しているのです。「耳にしたとき」という訳はなめらかですが、間違っていないのは、あなた方が聞いてくれたから実現したというのではないのです。神の言葉が発せられて、あなたがたのところで実現したというのです。私がおこにきて、捕らわれていた人が解放され、見えなかった人に見えるようになり、虐げられていた人が自由になる、このような力ある神の御業が今、もうあなたがたのところで起こっている。神の国があなたがたのところに来ている。あなたがたは神の救いの中に入れられている。神の言葉があなたがたのところで出来事を起しているというのです。

礼拝毎に私たちはこのような出来事にあずかっているのです。神の言葉が語られ聴かれて、私たちは主イエス・キリストと堅く結ばれ、主イエス・キリストのものとして生かされ、主イエス・キリストの証人として立てられているのです。